

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	白川 ゆう子
主な担当科目	音楽療法各論Ⅲ
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年度の経験も踏まえ、withコロナであっても学生たちにとって深い学びができる方法を追求したい。具体的には、1年生の「音楽療法アンサンブルⅡ」などで実際の対象者と音楽療法的な体験をする機会を設けてきたが、ビデオレターという形で音楽療法的な活動を提供する方法について、より良い方法を考え実践したい。
2022年の教育に関する自己評価	1年生たちにとっては、実際に対面で対象児者に出会うことはできなかったが、何度も録画し、対象児者により伝わりやすい方法を全員で検討することができた点が良かった。また、ビデオレターの送り先から届いたアンケートを学生たちにフィードバックすることで、より深い学習につながった。これらの経験は、コロナ禍以外でも応用できる。社会のニーズに応じた学修内容を提供できていると感じる。
2022年のFD活動に関する自己評価	音楽療法学内組織の書記として、特に音楽療法学内組織FD研修会に関係することを中心に業務を遂行した。音楽療法学内組織でのFD研修会の開催、非常勤教員の所定外手当の申請等、事務的な作業も実施した。また、非常勤講師から出された意見については、他の専任教員とも情報共有し、授業が円滑に行えるような検討を行った。
授業改善のために取り入れた研修内容	2022年度第1回の音楽療法学内組織FD研修会において「音楽療法士に必要な能力」についての講話を二俣教授にして頂いた。日本音楽療学会から、必要とされる音楽療法士像が未だ明確に示されていないことから、高等教育の現場からどのような音楽療法士を輩出していくと良いか、教員間で共有できたことは非常に有意義なことであった。

科目名－クラス名

## 音楽療法各論Ⅲ

## 曜日時限

木 3時限

## 担当教員

白川 ゆう子

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
講義	3～	前期	2	20	60	0	20	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽療法コース3年次必修科目で、専門知識などを獲得するための科目である。

1.高齢者を対象とした音楽療法について学ぶ。高齢社会・加齢の意味、高齢者に多くみられる疾患・障がいを理解し、音楽療法へのニーズとそれに応える適切なアプローチを学ぶ。また、人生の締めくくりとしてのホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について学ぶ。2.音楽療法における研究の進め方および論文の書き方について、基本的な知識を学び、小論文を作成してプレゼンテーションを行う。この小論文作成の過程を、4年次の卒業論文執筆の準備として活用することが望ましい。3.日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格試験の過去問題に取り組む。

## 学修成果

1.高齢者に多くみられる疾患や障害とニーズに合わせた音楽療法についての知識を、筆記試験の成果で示すことができる。2.ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についての知識を、筆記試験の成果で示すことができる。3.卒業論文の準備段階として、論文執筆の手順を踏まえ、適切に構成された論理的な内容の小論文を書くことができる。4.日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）の資格試験の内容を理解し、過去の問題の傾向を分析し、その対策を行うことができる。

## 授業展開と内容

第1回	授業ガイダンス、シラバス説明 高齢社会 加齢の影響 音楽療法研究の意義 論文の書き方① 論文作成の手順 全体の流れの説明 担当：白川・田原	デイビス7章・16章
第2回	高齢者に多くみられる疾患と障がいについて 論文の書き方② 論文作成の手順 研究課題設定等 担当：白川・田原	デイビス7章・16章
第3回	高齢者を取り巻く環境、健康な高齢者のための音楽療法 論文の書き方③ アウトラインについて 担当：白川・田原	デイビス7章・16章
第4回	認知症高齢者と音楽療法 論文の書き方④ 論文の構成について 担当：白川・田原	デイビス7章・16章
第5回	精神科における高齢者の音楽療法 論文の書き方⑤ 研究倫理について 担当：田原・白川	デイビス8章・16章
第6回	音楽療法士の仕事 認定音楽療法士について 論文の書き方⑥ 引用と研究倫理について 担当：田原・白川	*アウトライン提出*
第7回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の概要 担当：田原・白川	デイビス12章 *過去問例題*
第8回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実際① DVD視聴 担当：田原・白川	デイビス12章 *過去問例題*
第9回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実際② 実践例の紹介 担当：田原・白川	デイビス12章 *過去問例題*
第10回	神経疾患のための音楽療法 論文の書き方⑦ 論文の言葉遣いについて、口頭発表の仕方 認定音楽療法（補）の試験について 担当：白川・田原	デイビス10章・11章 *過去問例題*
第11回	神経疾患のための音楽療法 認定音楽療法士の実技・面接試験について 担当：白川・田原	デイビス10章・11章 *過去問例題*
第12回	神経疾患リハビリテーションと音楽療法 パーキンソン病 担当：羽石（特別講師）・白川・田原	羽石2・3章

第13回 神経疾患リハビリテーションと音楽療法 羽石6・7・8章  
 音楽療法ボイスプラム  
 歌唱トレーニングと発声・発話・呼吸・響き \*小論文提出\*  
 担当：羽石（特別講師）・白川・田原

第14回 小論文プレゼンテーション①  
 担当：白川・田原

第15回 小論文プレゼンテーション②・まとめ  
 担当：白川・田原

第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

#### 履修上の注意

課題は小論文のアウトライン作成および小論文本体執筆を指します。成果発表は小論文のプレゼンテーションを指します。筆記テストは授業と教科書（シラバスに示した章）の内容が中心となります。授業内容は、学生の理解の程度や進度によって進行・順序を変更する場合があります。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回ごとに示した教科書の章（著者名で示している）を、授業外に読み、60分程度予習復習を行って下さい。その知識を前提として授業を進めていきます。提出された課題に対して、コメントして返却します。

#### 教科書・参考書

教科書：W.B.デイビスら著 栗林文雄監訳「音楽療法入門Ⅰ～Ⅲ：理論と実践」第3版（一麦出版社）

教科書：羽石英里著「パーキンソン病のための歌による発声リハビリテーション」（春秋社）

2022年度卒論・修論マニュアルより抜粋。その他、適宜配付する。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1801 教員名：白川 ゆう子

### 1) 評価結果に対する所見

全体的な結果を受け、皆さんが主体的に学ぶ意欲を持って授業に臨んでいる様子がかうかがえました。

「音楽療法アンサンブルⅡ」では、Q.3,8以外で全員が「そう思う」と回答しており、総合的満足度が100%と非常に高い数値が示されました。皆さんが主体性を持って授業に臨んでいる結果が示されました。授業回数・時間は規定通り実施いたしました。

この授業の後半では、音楽療法的な活動をビデオレターにして、保育園や高齢者施設にお渡ししました。学生各々が、主体性を持ってアイデアを共有し、それを具現化するという作業が非常によくできていました。とても良いチームワークで皆さん一人一人が授業に参加できていたと思います。ビデオレター作成のための練習、動画撮影や編集作業を授業外で皆さんが行っておられましたので、その作業自体が予習復習に該当していると思います。

### 2) 要望への対応・改善方策

「音楽療法アンサンブルⅡ」では、1件自由記述がありました。

「楽しく参加させていただいています！あと数回ですが、よろしくお願いします！」という内容でした。この授業で行っていることは、今後の音楽療法の学びの基礎となる部分です。仲間とうまく関わり、プロジェクトを成功させる体験ができたことは良かったことだと思います。引き続き、そのような授業展開をしてまいります。

### 3) 今後の課題

今回は、コロナ対策のため、ビデオレター作成でしたが、今後の様子によっては、対面での音楽療法活動ができる可能性があると思います。状況に応じて、柔軟に対応できる音楽療法士になれるように、今後も授業を行ってまいります。

以上